



2026年9月1日

各 位

会 社 名 ク リ ン グ ル フ ァ ー マ 株 式 会 社
住 所 大 阪 市 北 区 中 之 島 四 丁 目 3 番 5 1 号
Nakanoshima Qross 未来医療 R&D センター10 階
代 表 者 名 代 表 取 締 役 社 長 安 達 喜 一
(コード番号: 4884 東証グロース)
問い合わせ先 取 締 役 経 営 管 理 部 長 村 上 浩 一
TEL. 06-7653-6728

岐阜大学医学部との HGF の特発性大腿骨頭壊死症への応用 に関する研究課題が AMED 事業に採択されました

当社は、HGF の特発性大腿骨頭壊死症への応用研究に関する共同研究を進めている岐阜大学医学部附属病院の秋山治彦病院長兼整形外科教授を研究開発代表者とする研究課題が、このたび、国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）の令和8年度「難治性疾患実用化研究事業（第2次公募）」に採択されましたので、お知らせいたします。

事業名：令和8年度「難治性疾患実用化研究事業（第2次公募）」

開発フェーズ：A-1 医薬品の治験準備（医薬品ステップ1）

非臨床研究・前臨床研究

研究開発課題名：骨頭圧潰リスクの高い特発性大腿骨頭壊死症に対する新規治療法である HGF 治療薬を用いた医師主導治験

研究開発代表者：秋山治彦（岐阜大学 教授）

AMED ウェブサイト：https://www.amed.go.jp/koubo/03001/02/C_00009.html

当社は、本研究課題に分担研究機関として参画いたします。本事業への採択により、治験実施に必要な非臨床試験データ等の取得を進めることで治験準備を加速し、特発性大腿骨頭壊死症患者を対象とした HGF 治療薬の臨床試験の早期開始を目指してまいります。

以上

特発性大腿骨頭壊死症について

股関節にある大腿骨頭の血流が悪くなることによって、骨頭が壊死する病気です。一度壊死した骨頭は元には戻らず、壊死した骨が骨折したり骨頭が潰れたりすることによって、股関節が痛くなったり、酷くなると歩行が困難になります。発症の危険因子として、ステロイド投与、アルコール、喫煙が挙げられますが、発症原因は十分には解明されておらず未だ不明です。

日本における年間の新規発生患者数は約2千～3千人であり、厚生労働省の指定難病に指定されています。既存の治療法としては、壊死部分の除去や人工骨への置換など外科的手術が行われますが、承認された治療薬はありません。低侵襲性の新規治療方法が強く求められています。

HGF (Hepatocyte Growth Factor, 肝細胞増殖因子) について

HGF は、成熟肝細胞の増殖を促進する因子として発見された生理活性タンパク質であり、その後の研究から細胞増殖のみならず、細胞運動促進、抗細胞死、形態形成誘導、血管新生など様々な組織・臓器の再生と保護を担う多才な生理活性を有することが明らかにされました。

HGF は神経保護作用や軸索伸展作用も有し、神経難病とされる脊髄損傷に対する薬理効果は、慶應義塾大学再生医療リサーチセンター 岡野栄之センター長及び同大学医学部整形外科学教室 中村雅也教授らのグループの研究により明らかにされています。また、ALS に対する薬理効果の可能性は、東北大学大学院医学系研究科神経内科学分野 青木正志教授らのグループの研究により示されました。新たな神経難病治療薬として、HGF への期待が高まっています。

他方、京都府立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科学教室 平野滋教授らのグループは、HGF の抗線維化作用に着目し、線維化疾患である声帯癬痕に対する薬理効果を明らかにしました。HGF には、声帯癬痕を端緒として、他の線維化疾患への適応拡大の可能性が期待されています。

クリングルファーマ株式会社について <https://www.kringle-pharma.com/>

当社は「難治性疾患治療薬の研究開発を行い、難病に苦しむ患者さんに対して画期的な治療手段を提供し、社会に貢献すること」を企業理念とし、希少疾病を対象にオレメペルミン アルファ（組換えヒト HGF タンパク質の国際一般名称）の自社開発を推進するバイオベンチャー企業です。

現在、オレメペルミン アルファのレイトステージの開発パイプラインでは、脊髄損傷急性期を対象とする第Ⅲ相追加臨床試験において症例組入れを進めるとともに、声帯癬痕を対象とする第Ⅲ相臨床試験では症例組入れを完了し、経過観察を継続しています。

当社は、HGF タンパク質医薬品の社会実装を通じて新たな価値を創造し、人々の健康と幸せに貢献してまいります。